

数学集中講義

和と戯れる ① ～ $\sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1}$ から見る和の世界～

吉田 信夫

大学への数学 09年8月号 掲載

平成 20, 21 年のセンター試験数学 II B 本試験での「数列」の問題は非常に興味深いものであった。この 2 題の内容をベースにして、

$$\sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1} = 1 \cdot 1 + 2 \cdot 2 + 3 \cdot 2^2 + \dots + (n-1)2^{n-2} + n \cdot 2^{n-1}$$

に関して考えてみよう。通常、 $S = \sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1}$ として、

$$\begin{aligned} S &= 1 \cdot 1 + 2 \cdot 2 + 3 \cdot 2^2 + \dots + n \cdot 2^{n-1} \\ -) 2S &= \quad 1 \cdot 2 + 2 \cdot 2^2 + \dots + (n-1)2^{n-1} + n \cdot 2^n \\ \hline -S &= 1 \cdot 1 + 1 \cdot 2 + 1 \cdot 2^2 + \dots + 1 \cdot 2^{n-1} - n \cdot 2^n \\ &= \frac{2^n - 1}{2 - 1} - n \cdot 2^n \\ &= -(n-1)2^n - 1 \end{aligned}$$

$$\therefore S = \sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1} = (n-1)2^n + 1$$

と計算するが、次の技を知っている人もいるだろう：

$x \neq 1$ において

$$\sum_{k=1}^n x^k = \frac{x^{n+1} - x}{x - 1}$$

であり、この両辺を x で微分すると、

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n k \cdot x^{k-1} &= \frac{\{(n+1)x^n - 1\}(x-1) - (x^{n+1} - x)}{(x-1)^2} \\ &= \frac{n \cdot x^{n+1} - (n+1)x^n + 1}{(x-1)^2} \end{aligned}$$

となる。 $x=2$ として、

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1} &= n \cdot 2^{n+1} - (n+1)2^n + 1 \\ &= (n-1)2^n + 1 \end{aligned}$$

である。

さて、平成 21 年センター試験では、どのような出題だったか見てみよう。

$\{a_n\}$ を初項 a_1 が 1 で公比が $\frac{1}{3}$ の等比数列とする。数列 $\{a_n\}$ の偶数番目の項を取り出して、数列 $\{b_n\}$ を $b_n = a_{2n}$ ($n=1, 2, 3, \dots$) で定める。

$$T_n = \sum_{k=1}^n b_k \text{ とおく。}$$

(1) $\{b_n\}$ も等比数列であり、その初項は $\frac{\text{ア}}{\text{イ}}$ 、

公比は $\frac{\text{ウ}}{\text{エ}}$ である。したがって

$$T_n = \frac{\text{オ}}{\text{カ}} \left(1 - \frac{\text{キ}}{\text{ク}}^n \right)$$

である。また、積 $b_1 b_2 \dots b_n$ を求めると

$$b_1 b_2 \dots b_n = \frac{\text{ケ}}{\text{コ}}^{n^2}$$

となる。

(2) 次に、数列 $\{c_n\}$ を $c_n = 2n \cdot b_n$ ($n=1, 2, 3, \dots$)

で定め、 $U_n = \sum_{k=1}^n c_k$ とおく。

$$\text{サ} \cdot c_{n+1} - c_n = \text{シ} \cdot b_n \quad (n=1, 2, 3, \dots)$$

が成り立つから

$$\sum_{k=1}^n (\text{サ} \cdot c_{k+1} - c_k) = \text{シ} \cdot T_n \quad \dots \dots \text{①}$$

である。また、この左辺の和をまとめ直すと、

U_n, c_{n+1}, c_1 を用いて

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n (\text{サ} \cdot c_{k+1} - c_k) &= \text{ス} \cdot U_n + \text{セ} \cdot c_{n+1} - \text{ソ} \cdot c_1 \quad \dots \dots \text{②} \end{aligned}$$

と表される。

① と ② より、

$$U_n = \frac{\text{タチ}}{\text{ツテ}} - \frac{\text{トナ} \cdot n + \text{ニヌ}}{\text{ツテ}} \cdot \frac{1}{\text{ネ}}^n$$

となる。

※ 解答は省略する。

集中講義～和と戯れる①～

センター試験の会場で(2)を見てとまどった人も多いのではないだろうか。ここでは、 c_n を $n \cdot 2^{n-1}$ に変更し、そのエッセンスだけ抽出してみよう。

問題 1. すべての自然数 n に対して
 $A(n+1)2^n - n \cdot 2^{n-1} = B \cdot 2^{n-1}$
 となるような実数 A, B を求めよ。また、これを
 利用して $\sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1}$ を求めよ。

解 $n=1, 2$ で成り立つから、

$$\begin{cases} 4A-1=B \\ 12A-4=2B \end{cases}$$

$$\Leftrightarrow A = \frac{1}{2}, B = 1$$

が必要である。逆にこのとき、すべての n で

$$\frac{1}{2}(n+1)2^n - n \cdot 2^{n-1} = 2^{n-1}$$

が成り立ち、十分である。また、両辺の和：

$$\sum_{k=1}^n \left\{ \frac{1}{2}(k+1)2^k - k \cdot 2^{k-1} \right\} = \sum_{k=1}^n 2^{k-1}$$

において、

$$\begin{aligned} & \sum_{k=1}^n (k+1)2^k \\ &= 2 \cdot 2 + 3 \cdot 2^2 + \dots + n \cdot 2^{n-1} + (n+1)2^n \\ &= -1 + (1 \cdot 1 + 2 \cdot 2 + \dots + n \cdot 2^{n-1}) + (n+1)2^n \\ &= \sum_{m=1}^n m \cdot 2^{m-1} + (n+1)2^n - 1 \end{aligned}$$

に注意すると、

$$(\text{右辺}) = \frac{2^n - 1}{2 - 1} = 2^n - 1,$$

$$\begin{aligned} (\text{左辺}) &= \frac{1}{2} \sum_{k=1}^n (k+1)2^k - \sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1} \\ &= \frac{1}{2} \left\{ \sum_{m=1}^n m \cdot 2^{m-1} + (n+1)2^n - 1 \right\} - \sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1} \\ &= -\frac{1}{2} \sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1} + \frac{(n+1)2^n - 1}{2} \end{aligned}$$

より、

$$\begin{aligned} & -\frac{1}{2} \sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1} + \frac{(n+1)2^n - 1}{2} = 2^n - 1 \\ \therefore \sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1} &= 2 \left\{ \frac{(n+1)2^n - 1}{2} - (2^n - 1) \right\} \\ &= (n+1)2^n - 1 - 2 \cdot 2^n + 2 \\ &= (n-1)2^n + 1 \end{aligned}$$

である。

* * *

$A=1$ であれば、“部分分数分解”

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n \frac{1}{k(k+1)} &= \sum_{k=1}^n \left(\frac{1}{k} - \frac{1}{k+1} \right) \\ &= \left(1 - \frac{1}{2} \right) + \left(\frac{1}{2} - \frac{1}{3} \right) + \dots + \left(\frac{1}{n} - \frac{1}{n+1} \right) \\ &= 1 - \frac{1}{n+1} \end{aligned}$$

のような『差に分けて打ち消す』解法になる。この流れで $\sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1}$ を求めてみよう。

問題 2. $(n+1)2^n - n \cdot 2^{n-1}$ を計算し、 $\sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1}$ を求めよ。

解 $(n+1)2^n - n \cdot 2^{n-1} = n \cdot 2 \cdot 2^{n-1} + 2^n - n \cdot 2^{n-1}$
 $= n \cdot 2^{n-1} + 2^n$

$$\therefore n \cdot 2^{n-1} = \{(n+1)2^n - n \cdot 2^{n-1}\} - 2^n$$

であるから、

$$\begin{aligned} \sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1} &= \sum_{k=1}^n \{(k+1)2^k - k \cdot 2^{k-1}\} - \sum_{k=1}^n 2^k \\ &= (n+1)2^n - 1 \cdot 2^0 - 2(2^n - 1) \\ &= (n-1)2^n + 1 \end{aligned}$$

である。

* * *

『差に分けて打ち消す』方法はエレガントである。

“シグマの公式” を作る時にも用いることもある：

● $(n+1)^3 - n^3 = 3n^2 + 3n + 1$

$$\therefore n^2 = \frac{(n+1)^3 - n^3}{3} - \left(n + \frac{1}{3} \right)$$

$$\begin{aligned} \Rightarrow \sum_{k=1}^n k^2 &= \sum_{k=1}^n \frac{(k+1)^3 - k^3}{3} - \sum_{k=1}^n \left(k + \frac{1}{3} \right) \\ &= \frac{(n+1)^3 - 1^3}{3} - \frac{n(n+1)}{2} - \frac{n}{3} \\ &= \frac{n(n+1)(2n+1)}{6} \end{aligned}$$

● $\frac{n(n+1)(n+2) - (n-1)n(n+1)}{3} = n(n+1)$

$$\therefore n^2 = \frac{n(n+1)(n+2) - (n-1)n(n+1)}{3} - n$$

$$\begin{aligned} \Rightarrow \sum_{k=1}^n k^2 &= \sum_{k=1}^n \frac{k(k+1)(k+2) - (k-1)k(k+1)}{3} - \sum_{k=1}^n k \\ &= \frac{n(n+1)(n+2) - 0 \cdot 1 \cdot 2}{3} - \frac{n(n+1)}{2} \\ &= \frac{n(n+1)(2n+1)}{6} \end{aligned}$$

* * *

集中講義～和と戯れる①～

これを一般化して“シグマの公式”を作ると、

$$\sum_{k=1}^n k^m = \frac{1}{m+1} n^{m+1} + (\text{低次の項})$$

となる。これを題材にした問題はよく見かけるが、次に挙げる慶応大の問題はシンプルで面白い。

問題 3. p, q, r を自然数とし、 $S_p(n) = \sum_{k=1}^n k^p$ とおく。

(1) $S_3(n) = \frac{1}{4} n^2(n+1)^2$ を示せ。

(2) 極限 $\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n^r} S_p(n)$ が 0 でない有限の値となるような r を p で表し、そのときの極限値を p で表せ。

(3) すべての自然数 n に対して $S_p(n) = \{S_q(n)\}^2$ が成り立つための必要十分条件は、 $p=3$ かつ $q=1$ であることを示せ。

解 (1) $n=1$ で成り立つ。また、ある自然数 n で

$$S_3(n) = \frac{1}{4} n^2(n+1)^2$$

が成り立てば、

$$\begin{aligned} S_3(n+1) &= \frac{1}{4} n^2(n+1)^2 + (n+1)^3 \\ &= \frac{1}{4} (n+1)^2 \{n^2 + 4(n+1)\} \\ &= \frac{1}{4} (n+1)^2 (n+2)^2 \end{aligned}$$

が成り立つ。数学的帰納法により、題意は示された。

(2) 区分求積を用いると、

$$\begin{aligned} \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n^{p+1}} S_p(n) &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n^{p+1}} \sum_{k=1}^n k^p \\ &= \lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n} \sum_{k=1}^n \left(\frac{k}{n}\right)^p = \int_0^1 x^p dx \\ &= \left[\frac{1}{p+1} x^{p+1} \right]_0^1 = \frac{1}{p+1} \end{aligned}$$

となるので、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n^r} S_p(n) = \begin{cases} \infty & (r < p+1) \\ \frac{1}{p+1} & (r = p+1) \\ 0 & (r > p+1) \end{cases}$$

である。よって、求める条件は $r = p+1$ であり、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n^r} S_p(n) = \frac{1}{p+1}$$

である。

(3) (2) を用いる。 $S_p(n) = \{S_q(n)\}^2$ が成り立つなら、

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n^r} S_p(n) = \begin{cases} \infty & (r < p+1) \\ \frac{1}{p+1} & (r = p+1), \\ 0 & (r > p+1) \end{cases}$$

$$\lim_{n \rightarrow \infty} \frac{1}{n^r} \{S_q(n)\}^2 = \begin{cases} \infty & (r < 2(q+1)) \\ \frac{1}{(q+1)^2} & (r = 2(q+1)) \\ 0 & (r > 2(q+1)) \end{cases}$$

において、0 でない実数値に収束する条件とそのときの極限値が一致するので、

$$p+1 = 2(q+1), \quad \frac{1}{p+1} = \frac{1}{(q+1)^2}$$

$$\Leftrightarrow p=3, q=1$$

が成り立つことが必要である。

逆に、 $p=3, q=1$ としたら、(1) より

$$S_3(n) = \{S_1(n)\}^2$$

が成り立ち、十分である。

以上で示された。

* * *

(2) から見える性質：

$$\sum_{k=1}^n k^m = \frac{1}{m+1} n^{m+1} + (\text{低次の項})$$

については、実は、

「一般項→和」 ≡ 「関数→原始関数」

というイメージである。直感的には、

$$\int x e^x dx = (x-1)e^x + C$$

$$\Rightarrow \sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1} \doteq n \cdot 2^{n-1}$$

と考えられるのである。さらに、

「和→一般項」 ≡ 「関数→導関数」

というイメージをもっていると、なお良い。

基本公式：

数列 $\{a_n\}$ の初項から第 n 項までの和を S_n とおくと、

$$a_1 = S_1, \quad a_n = S_n - S_{n-1} \quad (n \geq 2)$$

である。

集中講義～和と戯れる①～

この公式を使うとき、 S_n の式に無理矢理 $n=0$ を代入して0になるときは、一般項 a_n が1つの式で書ける。そうでないときは、 a_1 だけが別扱いになる：

$\{a_n\}, \{b_n\}$ の和がそれぞれ

$$S_n = n^2, T_n = n^2 + 1$$

であるとき、

$$a_n = 2n - 1 (n \geq 1)$$

$$b_1 = 2, b_n = 2n - 1 (n \geq 2)$$

である。

*

*

これを利用して、“逆算”の発想で $\sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1}$ を求めてみよう。

問題 4. (1) 数列 $\{a_n\}$ の初項から第 n 項までの和 S_n が

$$S_n = n \cdot 2^n (n=1, 2, 3, \dots)$$

を満たすという。 a_n を求めよ。

(2) (1) を利用して $\sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1}$ を求めよ。

解 (1)

$$a_1 = S_1 = 2$$

であり、 $n \geq 2$ のとき、

$$\begin{aligned} a_n &= S_n - S_{n-1} \\ &= n \cdot 2^n - (n-1)2^{n-1} \\ &= (n+1)2^{n-1} \end{aligned}$$

である。これは $n=1$ でも成り立つので、

$$a_n = (n+1)2^{n-1}$$

である。

$$(2) \quad n \cdot 2^{n-1} = a_n - 2^{n-1}$$

$$\begin{aligned} \therefore \sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1} &= \sum_{k=1}^n (a_k - 2^{k-1}) = S_n - (2^n - 1) \\ &= (n-1)2^n + 1 \end{aligned}$$

である。

*

*

この方法は、和の形が何となく分かれば使用可能である。“2次関数を積分したら3次関数”であるから、こんなことにも応用できる：

$$S_n = n^3 (n=1, 2, 3, \dots) \quad (\leftarrow S_0 = 0)$$

となる数列 $\{a_n\}$ は

$$a_n = 3n^2 - 3n + 1 (n=1, 2, 3, \dots)$$

であるから、

$$n^2 = \frac{a_n}{3} + n - \frac{1}{3}$$

$$\begin{aligned} \therefore \sum_{k=1}^n k^2 &= \sum_{k=1}^n \frac{a_k}{3} + \sum_{k=1}^n \left(k - \frac{1}{3}\right) = \frac{S_n}{3} + \frac{n(n+1)}{2} - \frac{n}{3} \\ &= \frac{n(n+1)(2n+1)}{6} \end{aligned}$$

である。

*

*

最後は平成20年センター試験からの連想である。(1)と(2)のつながりをよく考えよう。

問題 5. (1) 一般項が実数 a, b を用いて

$a_n = an + b$ と表される数列 $\{a_n\}$ があり、

$$a_{n+1} = \frac{1}{2}a_n + n (n=1, 2, 3, \dots)$$

を満たすという。 a, b の値を求めよ。

(2) (1) を利用して $\sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1}$ を求めよ。

解 (1)

$$a(n+1) + b = \frac{1}{2}(an + b) + n (n \geq 1)$$

において、両辺の係数を比較して、

$$a = \frac{1}{2}a + 1, a + b = \frac{1}{2}b$$

$$\therefore a = 2, b = -4$$

である ($a_n = 2n - 4$)。

(2) (1) の数列 $\{a_n\}$ の一般項を別の形で表す。

$$a_1 = -2, a_{n+1} = \frac{1}{2}a_n + n (n \geq 1)$$

$$\therefore 2^0 a_1 = -2, 2^n a_{n+1} = 2^{n-1} a_n + n \cdot 2^n (n \geq 1)$$

となる。 $\{2^{n-1} a_n\}$ の階差数列が分かったので、

$$2^{n-1} a_n = -2 + 2 \sum_{k=1}^{n-1} k \cdot 2^{k-1} (n \geq 2)$$

$$\Leftrightarrow 2^n a_{n+1} = -2 + 2 \sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1} (n \geq 1)$$

$$\begin{aligned} \therefore \sum_{k=1}^n k \cdot 2^{k-1} &= \frac{2^n a_{n+1} + 2}{2} \\ &= (n-1)2^n + 1 \end{aligned}$$

である。

(よしだ のぶお, 予備校講師)